

[M E P 乳 剤]

農林水産省登録 第4962号

性 状: 黄褐色可乳化油状液体

毒 性: 普通物

危 険 物: 第4類第2石油類 III

有効年限: 4 年

包 装: 500 ml×20本、5 l×4缶、18 l缶

住化

スミチオン® 乳 剤

有効成分: MEP (PRTR・1種)…………… 50.0%

補助成分: キシレン (PRTR・1種)……………21%以下 エチルベンゼン (PRTR・1種) …………… 21%以下



「住友化学農業ガイド」の見方: i- 農カサイトの「製品情報」、「農業ガイドを見る」から、「農業ガイドの見方」をご覧ください。  
本剤の最新情報: こちらのQRコードを読み取ると i- 農カサイトに掲載されている本剤の最新情報をご覧いただけます。

[適用と使用方法]

作物名	適用害虫名	希釈倍数	107-ℓ当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
稲	ニカメイチュウ第1世代	1000~2000倍	60~ 150 ℓ	21 日前	本 剤: 2回 MEP: 3回 (#1)	散布
	ニカメイチュウ第2世代 サンカメイチュウ第3世代	800~1000倍				
	ヒメトビウンカ カメムシ類 イネツトムシ イネシンガレセンチュウ イネドロオイムシ アブラムシ類・アワヨトウ	1000倍				
	イネハモグリバエ	1000~2000倍				
	イネヒメハモグリバエ	2500倍	25 ℓ			
	フタオビコヤガ	2000~4000倍				
	ニカメイチュウ カメムシ類	300倍				
	稲	イネシンガレセンチュウ	1000倍	—	は種前	本 剤: 1回 MEP: 3回 (#1)
100倍			専用の種 子消毒機 を用いて 乾燥種 重量の 3%の量 の希釈液 を種粒に 吹付け 処理又は 塗沫処理			
稲 (箱育苗)		1000倍	育苗箱(60 × 30 × 3 cm、使用土 壌約5ℓ) 1箱当り 500 ml	硬化期~ 移植前日		育苗箱の上 から均一に 散布する。
稲	ニカメイチュウ ヒメトビウンカ カメムシ類 イネハモグリバエ イネヒメハモグリバエ フタオビコヤガ イネツトムシ	30倍	3 ℓ	21 日前	本 剤: 2回 MEP: 3回 (#1)	空中散布

作物名	適用害虫名	希釈倍数	107-1当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法	
稲	ニカメイチュウ カメムシ類	8倍	800 ml	21日前	本剤:2回 MEP:3回 (#1)	空中散布	
						※	
麦 (小麦、大麦を除く)	アブラムシ類 アワヨトウ ムギキモグリバエ	1000倍	60~ 150 l	14日前	1回	散布	
	ムギアカタマバエ ヒメトビウンカ	30倍	3 l			空中散布	
	ヒメトビウンカ	8倍	800 ml			※	
アブラムシ類	250倍			25 l		散布	
小麦	アブラムシ類 アワヨトウ ムギキモグリバエ	1000倍	60~ 150 l	7日前		1回	散布
	ムギアカタマバエ ヒメトビウンカ	30倍	3 l				空中散布
	ヒメトビウンカ	8倍	800 ml		散布		
大麦	アブラムシ類 アワヨトウ ムギキモグリバエ	1000倍	60~ 150 l	7日前	1回		散布
	ムギアカタマバエ ヒメトビウンカ	30倍	3 l				空中散布
	ヒメトビウンカ	8倍	800 ml				※
りんご	アブラムシ類	1000~2000倍	200~ 700 l	30日前		3回	散布
	ナシヒメシシクイ・モモシシクイガ ハマキムシ類						
	ナシゲンバイ アメリカシロヒトリ						
	クワコナカイガラムシ						
なし (有袋栽培)	アブラムシ類	1000~2000倍	200~ 700 l	14日前	6回	散布	
	シシクイムシ類・ハマキムシ類 ナシゲンバイ・ナシホソガ ナシチビガ・カメムシ類 アメリカシロヒトリ						
	クワコナカイガラムシ						
	アブラムシ類						
なし (無袋栽培)	アブラムシ類	1000~2000倍	200~ 700 l	21日前	6回	散布	
	シシクイムシ類・ハマキムシ類 ナシゲンバイ・ナシホソガ ナシチビガ・カメムシ類 アメリカシロヒトリ						
	クワコナカイガラムシ						
	アブラムシ類						
うめ	アブラムシ類	1000~2000倍	100~ 300 l	14日前	2回	散布	
	アメリカシロヒトリ・ハマキムシ類	1000倍					
いちよう (種子)	コウモリガ ヒメボクトウ	100倍	0.3~ 3 l/樹	60日前	3回	樹幹散布	
ほうれんそう	ハウレンソウケナガコナダニ	2000倍	100~ 300 l	21日前	2回	散布	
	アブラムシ類	1000~2000倍					

表中の※は無人航空機による散布

作物名	適用害虫名	希釈倍数	107-ℓ当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法	
ごぼう	アブラムシ類・フキノメイガ	1000~2000倍		14日前	2回	散布	
たまねぎ	アブラムシ類 アザミウマ類			700~1000倍			21日前
だいず	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類・マメヒメサヤムシガ ウコンノメイガ・マメハンミョウ	1000倍	100~300ℓ	21日前	4回		空中散布
	アブラムシ類 マメシンクイガ	1000~2000倍 1000~1500倍					
	マメシンクイガ ダイズサヤタマバエ シロイチモジマダラメイガ マメヒメサヤムシガ・カメムシ類	20倍	3ℓ			※	
	ダイズサヤタマバエ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤムシガ・カメムシ類 ウコンノメイガ・マメシンクイガ	8倍	800ml				
豆類 (種実、ただし、 だいず、あずき、 いんげんまめ、 そらまめを除く)	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1000倍	100~300ℓ	3日前	3回	散布	
	アブラムシ類 マメシンクイガ	1000~2000倍 1000~1500倍					
	未成熟 そらまめ	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類・マメヒメサヤムシガ					1000倍
アブラムシ類 マメシンクイガ		1000~2000倍 1000~1500倍					
いんげんまめ		シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類・マメヒメサヤムシガ インゲンテントウ	1000倍				
	アブラムシ類 マメシンクイガ	1000~2000倍 1000~1500倍					
	あずき	アズキノメイガ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類・マメヒメサヤムシガ マメホソクチゾウムシ	1000倍	25ℓ	21日前		4回
アブラムシ類 マメシンクイガ		250倍 1000~2000倍 1000~1500倍					
そらまめ		アブラムシ類					
豆類 (未成熟、ただし、 えだまめ、 さやいんげん、 未成熟そらまめ を除く)	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1000倍	100~300ℓ	21日前	4回		
	アブラムシ類 マメシンクイガ	1000~2000倍 1000~1500倍					

表中の※は無人工空機による散布

作物名	適用害虫名	希釈倍数	107-1当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
えだまめ	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ ウコンノメイガ	1000 倍	100~ 300 ℓ	21 日前	4 回	散布
	アブラムシ類	1000~2000 倍				
	マメシンクイガ	1000~1500 倍				
さやいんげん	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ インゲンテントウ	1000 倍				
	アブラムシ類	1000~2000 倍				
	マメシンクイガ	1000~1500 倍				
なす	アブラムシ類 テントウムシダマシ類	1000~2000 倍		前日	5 回	
きゅうり メロン しろり	アブラムシ類					
すいか	アザミウマ類	1000 倍				
	アブラムシ類	1000~2000 倍				
かぼちゃ	アザミウマ類	700~1000 倍	3 日前	6 回		
	アブラムシ類	1000~2000 倍				
茶	アブラムシ類	1000~2000 倍	14 日前	3 回		
	アザミウマ類	700~1000 倍				
とうもろこし	ココクモンハマキ・チャノホソガ ミノガ類	1000 倍	200~ 400 ℓ	摘採 21 日前	1 回	
	アワノメイガ・カメムシ類	1000 倍	100~ 300 ℓ	7 日前	4 回	
ばれいしょ	アブラムシ類	250 倍	25 ℓ	3 日前	6 回	
	アブラムシ類 テントウムシダマシ類	1000 倍				
ねぎ	アブラムシ類	1000~2000 倍	100~ 300 ℓ	14 日前	2 回	
	アザミウマ類	700~1000 倍				
	ネギコガ	1000 倍				
トマト	アブラムシ類 オオニジウヤホシテントウ	2000 倍	親株養成期 但し 45 日前	前日		
せり	アブラムシ類					
うど	アブラムシ類 センノカミキリ ヒメシロコブゾウムシ ウドノメイガ ヨトウムシ	1000 倍		根株 養成期 但し 150 日前	4 回	
	かんしょ		イモコガ アブラムシ類 ヨツモンカメノコハムシ			
大粒種 ぶどう	アブラムシ類 フタテンヒメヨコバイ ブドウスカシバ ブドウトリバ	1000~2000 倍	200~ 700 ℓ	21 日前	本剤: 2回 MEP: 4回 (#2)	

作物名	適用害虫名	希釈倍数	107-ℓ当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
大 粒 種 ぶ 粒 ど	ハマキムシ類 ブドウトラカミキリ キンケクチプトゾウムシ成虫	1000 倍		21 日前		
	クワコナカイガラムシ	1500 倍				
小 粒 種 ぶ 粒 ど	アブラムシ類 フタテンヒメヨコバイ ブドウスカシバ ブドウトリバ	1000~2000 倍	200~ 700 ℓ	90 日前	本 剤: 2回 MEP: 4回 (#2)	
	ハマキムシ類 ブドウトラカミキリ キンケクチプトゾウムシ成虫	1000 倍				
	クワコナカイガラムシ	1500 倍				
い ち ご	アブラムシ類	2000 倍	100~ 300 ℓ	前日	2 回	散布
み か ん		1000~2000 倍	200~ 700 ℓ	14 日前	本 剤: 5回 MEP: 5回 (#3)	
	ハマキムシ類 サンホーゼカイガラムシ アザミウマ類 カメムシ類 カネタタキ ミカンツボミタマバエ ケシクスイ類 コアオハナムグリ フラーパーゾウムシ ミカンキジラミ コナカイガラムシ類	1000 倍				
	ケシクスイ類 コアオハナムグリ アザミウマ類	10 倍				
かんきつ (みかんを除く)	アブラムシ類	1000~2000 倍	200~ 700 ℓ		本 剤: 3回 MEP: 3回 (#3)	散布
	ハマキムシ類 サンホーゼカイガラムシ アザミウマ類 カメムシ類 カネタタキ ミカンツボミタマバエ ケシクスイ類 コアオハナムグリ フラーパーゾウムシ ミカンキジラミ コナカイガラムシ類	1000 倍				
も も	アブラムシ類 モモハモグリガ ナンヒメシンクイ (心折防止)	1000~2000 倍		3 日前	本 剤: 6回 MEP: 6回 (#3)	
	ナンヒメシンクイ モモシンクイガ ハマキムシ類 クワシロカイガラムシ カメムシ類	1000 倍				
	クワコナカイガラムシ	1500 倍				

表中の※は無入航空機による散布

作物名	適用害虫名	希釈倍数	107-1当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
おうとう	アブラムシ類	1000~2000倍	200~ 700 l	14日前	本剤:2回 MEP:2回 (#4)	
	ハマキムシ類 ナシゲンバイ アメリカシロヒトリ					
かき	ハマキムシ類 カキノヘタムシガ カキホソガ フジコナカイガラムシ オオワタコナカイガラムシ カメムシ類 イラガ類 アメリカシロヒトリ ミノガ類若齢幼虫	1000倍		30日前	本剤:3回 MEP:3回 (#5)	
こんにやく	アブラムシ類	1000倍		14日前	3回	
わらび	ナガゼンマイノハチ			90日前	2回	
桑	クワゾウムシ成虫	500~750倍		成虫 発生期	6回	
まめ科牧草	ヨコバイ類・アブラムシ類 ウンカ類・ウリハムシモドキ ゾウムシ類	1000~2000倍	100~ 300 l	14日前	2回	散布
	ムギダニ	1000倍				
いね科牧草	ヨコバイ類・アブラムシ類 ウンカ類・ウリハムシモドキ ゾウムシ類	1000~2000倍				
	ムギダニ アワヨトウ	1000倍				
ばら	アブラムシ類	1000~2000倍				
	フラーバラゾウムシ	1000倍				
きく	アブラムシ類	1000~2000倍				
	フラーバラゾウムシ カメムシ類・ヨトウムシ類					
つつじ類	ゲンバウムシ類・ハマキムシ類	1000倍	200~ 700 l		6回	
カーネーション	アザミウマ類・クロウリハムシ		100~ 300 l			
芝	コガネムシ類幼虫	1000倍	3 l/m <sup>2</sup>	発生初期		
	シバツトガ・スジキリヨトウ		0.3~ 2 l/m <sup>2</sup>			
	シバオサゾウムシ		3 l/m <sup>2</sup>			
宿根 かすみそう	ハモグリバエ類		100~ 300 l	—		
オリーブ	オリーブアナアキゾウムシ (葉)	50倍	0.3~ 3 l/樹	21日前	3回	樹幹散布
				120日前		
げっきつ	ミカンキジラミ	1000倍	200~ 700 l	—	6回	散布
りんどう	ヒラズハナアザミウマ		100~ 300 l	発生初期		
たらのき	センノカミキリ幼虫 ヒメシロコブゾウムシ	100倍	150~ 300 l	3~5月 株養成期	2回	樹幹散布

作物名	適用害虫名	希釈倍数	107-ℓ当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
モロヘイヤ	マメコガネ・アザミウマ類 アブラムシ類・カメムシ類	1000倍	100～ 300ℓ	14日前	2回	散布
花き類・ 観葉植物	アオムシ・バッタ類 ハマキムシ類・アザミウマ類			－	6回	
樹木類	アメリカシロヒトリ	500～1000倍	200～ 700ℓ	－	6回	散布
	フラーバラゾウムシ アブラムシ類 ゲンバイムシ類	1000倍				
	オオハリセンチュウ	500倍	－	移植前	本剤:1回 MEP:6回	30分間 根部浸漬
アスター	ウリハムシ	1000倍	100～ 300ℓ	－	6回	散布
ソリダゴ	カメムシ類					
スターチス	コガネムシ類					
シネラリア	シンクイムシ類					
斑入り アマドコロ	コウモリガ					
ききょう	ヨトウムシ					
せんりょう	アザミウマ類 カメムシ類		200～ 700ℓ			
こでまり	カイガラムシ類					
しきみ	クスアナアキゾウムシ					
にしきぎ	ケムシ類					
しゃりんばい	シンクイムシ類					
だいおうしょう						
さかき	ハマキムシ類					
さんごじゅ	ワタノメイガ					
飼料用 とうもろこし	アブラムシ類	2000倍	100～ 300ℓ	30日前	2回	
たばこ	ヨトウムシ	1000倍	25～ 180ℓ	20日前	1回	
しちとうい	イネクロカメムシ		60～ 150ℓ	発生初期	2回	
らっきょう	ネダニ類	1000～2000倍	－	植付前	本剤:1回 MEP:3回 (#6)	30分間 種球浸漬
	アザミウマ類	1000倍	100～ 300ℓ	7日前	本剤:2回 MEP:3回 (#6)	散布
	アザミウマ類 ネギハモグリバエ	8倍	1.6ℓ			無人航空機 による散布

#1: 種もみへの処理は1回、育苗箱散布は1回、本田では2回

#2: 収穫終了後から萌芽までは2回、萌芽後は2回


#3: 樹幹処理は1回

#4: 樹幹処理及び灌注処理は合計1回

#5: 樹幹処理は2回

#6: 植付前は1回、植付後は2回

作物名	適用場所	適用害虫名	希釈倍数	107-ℓ当り 使用液量	総使用回数*	使用方法
水田作物、 畑作物 (休耕田)	ヨシ、オギ、ススキ、 セイタカアワダチソウ等の 多年生雑草が 優占している休耕田	カメムシ類	1000倍	60~ 150ℓ	4回	散布

 効果・薬害等の注意 

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- ボルドー液と混用する場合は散布直前に行い、できるだけ早く使用する。ただし、その他のアルカリ性の強い農薬との混用はさける。
- 桃の初期散布（5～6月）には薬害のことがあるので注意する。
- 稲（箱育苗）のイネシガラセンチュウに使用する場合は下記の事項に注意する。
  - 発芽期～緑化期の使用は薬害を生じるおそれがあるのでさける。
  - 軟弱徒長苗、ムレ苗などの場合は薬害を生じるおそれがあるので使用しない。
  - 土壌が極端に湿潤な場合は使用しない。
- イネシガラセンチュウの本田における防除に使用する場合、散布適期は出穂の頃であるので時期を失ないように散布する。なお効果を高めるためには出穂始めとその1週間後の2回散布が望ましい。
- 水稲種子の吹き付け処理の場合は、専用の種子消毒機を使用し、乾燥種粒に均一に付着するよう所定薬液を吹き付けて乾燥する。なお処理後、長期間保存する場合には、薬液処理を行ったことを明記し、まちがいのないようにする。
- 本田の水稲に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型 の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用する。
- クワゾウムシに対しては成虫が桑樹に集まる4月下旬から6月頃に散布する。  
成虫の活動は長期間にわたるので発生状況に応じて追加散布する。
- かきのミノガ類に使用する場合、幼虫が大きくなると効果が劣るので若令幼虫期に時期を失ないように散布する。
- 果樹のカメムシ類に対しては発生に応じて所定使用回数以内で繰返し散布する。
- 自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意する。
- 空中散布及び無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守る。
  - 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施する。
  - 少量散布（8倍液）の散布には、微量散布装置以外の散布器具は使用しない。
  - 無人航空機による散布にあつては散布機種種に適合した散布装置を使用する。
  - 散布中、薬液の漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行なう。
  - 特定の農薬（混用可能が確認されているもの）を除いて原則として他の農薬との混用は行わない。
  - 水源地、飲料用水等に本剤が飛散流入しないように十分注意する。
  - 散布終了後は次の事項を守る。
    - ・ 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄する。
    - ・ 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理する。
- 希釈倍数250倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を利用する。
- 梨の早生赤種、りんごの旭及びその近縁種には薬害のことがあるので使用はさける。
- 宿根かすみそうに使用する場合、開花期には薬害を生じることがあるので、この時期の使用はさける。
- あぶらな科作物、さといも、ソルゴには薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合



にはかからないように注意して散布する。

- ひのきに対しては個体によって落葉、枯損にいたるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布する。
- ほうれんそうに使用する場合、幼苗期には葉害を生じるおそれがあるので注意する。
- 牧草地に散布した場合は、散布直後の放牧はさける。
- まめ科牧草のアルファルファゾウムシに使用する場合は、幼虫発生期～成虫発生初期に散布する。なお、防除適期等については病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- かんきつのみかんツボミタマバエ防除に使用する場合は、成虫の発生初期に樹冠部及び主幹部を中心とした樹の内部、樹冠下の地表面に散布するのが効果的である。
- 芝のコガネムシ類幼虫に使用する場合は、散布液が土壤中に十分しみ込むようジョロ等で1㎡当り3ℓを散布する。
- フラーバラゾウムシ及びミカンキジラミに使用する場合は、植物防疫（事務）所、病害虫防除所等関係機関の指導のもとに実施する。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用する。  
なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。



## 安全使用上の注意



- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意する。
  - ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しない。
  - 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさける。
  - 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努める。
- 蚕に対して影響があるので給桑を予定している桑葉にはかからないようにする。
- 誤飲などのないように注意する。
- 解毒剤としては硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効であると報告されている。
- 眼に入らないよう注意する。  
眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。（刺激性）
- 皮ふに付着しないよう注意する。  
付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落とす。（刺激性）
- 散布の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。  
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
- 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しない。  
本剤を使用した苗は養魚田に移植しない。
- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 空中散布または無人航空機による散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意する。
- 散布後は水管理に注意する。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

(2020年4月8日現在の内容) 住友化学の農業支援サイト:i 農力<https://www.i-nouryoku.com/>

- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。

12 頁記載の注意事項、(1)、(2)、(3)、(4)－D も合わせてお読み下さい。

### 〔品目特性〕

- 有機リン系殺虫剤です。
- 作用機作はコリンエステラーゼの活性を阻害し、殺虫作用を示します。
- 害虫に対して接触効果、食毒効果があります。
- 植物に浸透性があります。
- 無人航空機による散布に使用できます。